



農園だより 冬号

農園売店『にんじん』
電話：0940-35-1121

平成 21 年 12 月
(株)正助ふるさと村
電話：0940-35-1100



1 月：土作りと栽培計画



1 月は低温で野菜の播種は難しいですが、土作りに一番良い時期です。また、秋に播種した大根・白菜・カブなどもこの時期に収穫できます。

★ 栽培計画をたてましょう

- ・ 播種期・定植期・収穫期・片付けを考えて、植え付け場所を決める。
- ・ 長く野菜作りを楽しむ為に、輪作・肥料設計を行う。
- ※ 同種類の野菜を続けて栽培すると連作障害が出る場合があります。

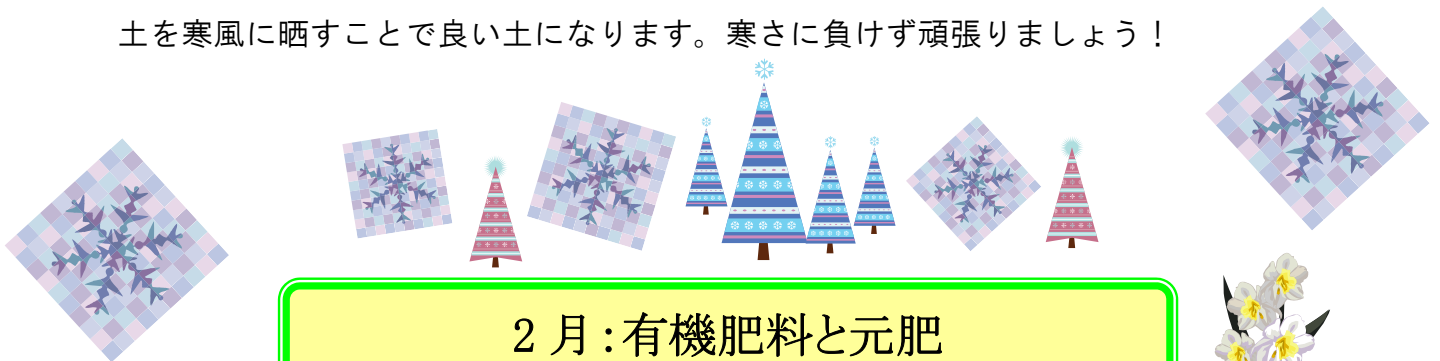


★ 土作り：収穫後～3 月の播种植付までに行う

野菜が良く育つのは、やわらかくふかふかした土です。

- ・ スコップで土を深く耕し、深さ約 30cm ほどをやわらかくする
- ・ 堆肥腐葉土・ピートモスなどの有機質を入れて耕し、土に多くの隙間をつくる。
(野菜の根が呼吸しやすい様、空気・水分・養分を十分に含ませる。)
- ・ 石灰や苦土石灰を入れ、土の酸度を PH6～6.5 (一般的な野菜) に調整する。

土を寒風に晒すことで良い土になります。寒さに負けず頑張りましょう！



2 月：有機肥料と元肥

■ 有機肥料とは ■

N・P・K の 3 要素のほかに、中微量元素 (カルシウム・マグネシウム・鉄・マンガン・ホウ素・モリブデン等) も多く含まれていて病気にかかりにくい健康な野菜ができます。
有機栽培では肥料不足になりがちですので、化成肥料と組み合わせるのも良いでしょう。



★ 有機肥料のぼかし(発酵肥料)を作しましょう

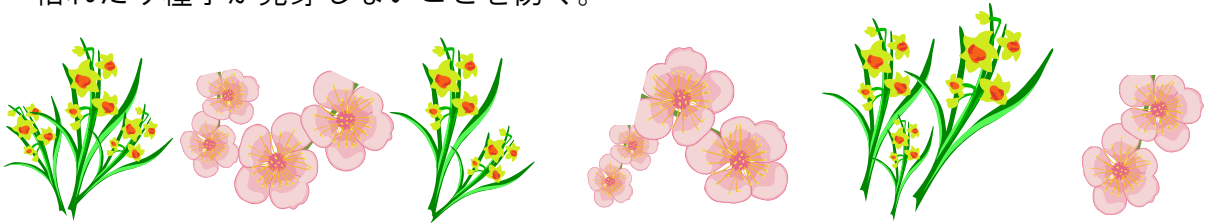
有機肥料（米ぬか・油粕・鶏糞・牛糞・魚粉・骨粉など）と堆肥、発酵菌を適度にブレンドして作る（有機発酵肥料）。

★ ぼかしの替わりに有機肥料をそのまま施肥する場合：

植物の栄養として効果が出るまでに、冬場 1～2 ヶ月、夏場 20～30 日位かかる。元肥として使用する時は早めに入れて耕起し、土とよく混ぜる

★ ガス抜きをしましょう

畑を 10～15 日に 1 回耕してガス抜きをする。
有機肥料をたくさん施すと植物に有害なガスが発生する。ガス抜きすることで、苗が枯れたり種子が発芽しないことを防ぐ。



3 月：春野菜作り

気温も上がり日差しも強くなる 3 月、雑草や病害虫も活動を始めます。そろそろ野菜作りを始めましょう。

★ 追肥をしましょう

- ・ 豆 類：化成肥料 30 g くらい（1 m²あたり）
- ・ たまねぎ： “ 50 g くらい（ “ ）
- ・ いちご： “ 50 g くらい（ “ ）



★ そらまめの整枝・土寄せ・追肥をしましょう

★ ジャガイモの植付をしましょう

- ・ 彼岸までに植付を済ませる
- ・ 4 月中下旬：芽かぎをする
芽が 15 cm 位伸びた頃、元気な芽を 2 本残して残りはすべてかぎとる。
- ・ 6 月：収穫

★ アブラナ科の野菜

3 月下旬になると、収穫し残したアブラナ科の野菜（白菜・小松菜など）がとうだちしてくるので、つぼみを取って菜花としてもぜひご利用を。

3 月はまだ地温が高くありません。野菜の播種は 4 月に入ってからでよいでしょう。

